

小田原市のため池で確認されたコウモリ類について

山口喜盛・山口尚子

Yoshimori Yamaguchi and Naoko Yamaguchi:
Notes on the Bats Found on a Reservoir in Odawara City

はじめに

国内に生息するコウモリ類の多くは絶滅が危惧されていることから、早急に生息状況を把握し、採餌環境や休息場などを保全する必要があるとされている（環境省，2002）。神奈川県内では、最近の調査で少しずつコウモリ類の生息状況がわかってきたが（山口ほか，2002；山口・山口，2005 など），不明なことが多く，自然林の減少や水辺形態の変化などから生息環境は悪化しているものと考えられる。このようなことから，生息情報を収集することは，コウモリ類を保全していく上で重要なことである。

今回筆者らは，小田原市において，コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus*，モモジロコウモリ *Myotis macrodactylus*，アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の3種が採餌場所に利用するため池を確認した。複数のコウモリ類が利用する採餌場所は貴重であり，モモジロコウモリの県内における分布は箱根町と山北町以外では知られていないことから，ここに確認状況を報告する。

ため池とその周辺の環境

ため池は箱根山麓うなぎ沢の上流二股窪に位置し，標

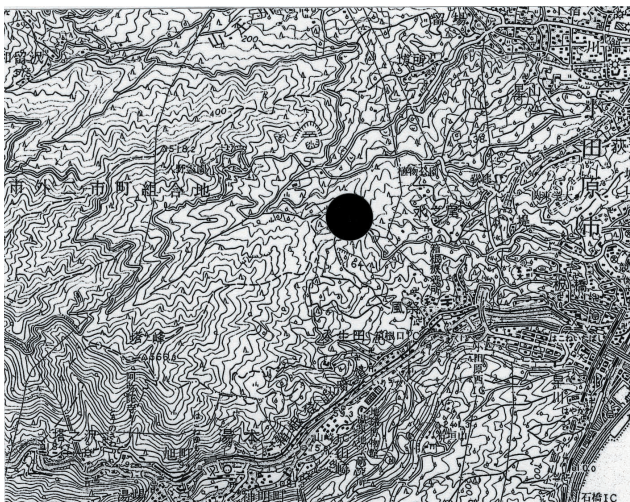


図 1. ため池の位置。国土地理院 5 万分の 1 地形図を使用。

高は約 180m であった（図 1）。このため池は上水之尾用水の源になり，上水之尾用水ため池（以下，ため池と言う）と言われている。およそ 200 年前に山腹から水が引かれ，周辺の水田に用いられていた。平成元年に小田原市によって修復され，現在は近くの農園に分水されている。

ため池の大きさと形は，半径約 10m 程度の円形状であった。周辺はスギやヒノキの植林地が広く占め，シイやカシなどの常緑広葉樹林，コナラやクヌギなどの二次林，ミカン畑などが入り混じっており，民家からは少し離れていた。ため池の周囲には覆い被さるようにサクラ類やヤマグワ，スギなどの樹木が繁っており，大きなコイや金魚が水中を泳いでいた（図 2）。

ため池の南側斜面の山腹には，江戸時代に掘られた農業用水である荻窪用水の隧道や暗渠がある。この荻窪用水は早川から水が引かれており，取入口の箱根湯本から出水口の小田原市荻窪まで全長 10.3 km におよんでいる（小田原市教育委員会作成パンフレットより）。

ため池における確認状況

コウモリ類は，発する音によって種を判別できることもあることから（コウモリの会，2006），調査には，コウモリの超音波を人の耳に聞こえる音に変換することの

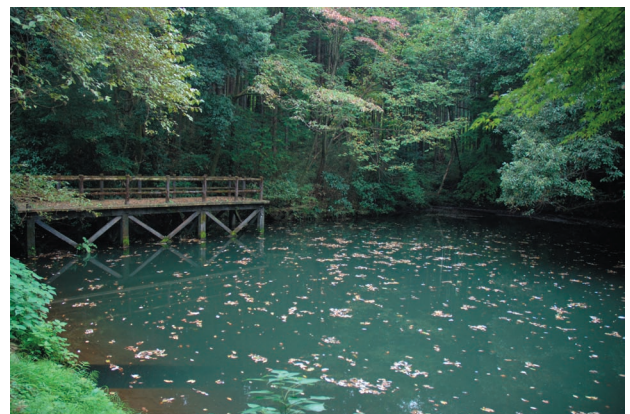


図 2. コウモリ類が確認されたため池。

表 1. ため池で観察されたコウモリ類の記録

観察日	種 名	モモジロコウモリ <i>Myotis macrodactylus</i>	アブラコウモリ <i>Pipistrellus abramus</i>	コキクガシラコウモリ <i>Rhinolophus cornutus</i>
2003. 10. 17		●	●	●
2003. 10. 30		●	●	
2003. 11. 3		●	●	
2005. 6. 5		●	●	
2005. 6. 17		●	●	
2005. 7. 7		●	●	
2005. 7. 21		●	●	
2006. 1. 26				
2006. 2. 14				
2006. 3. 21		●		
2006. 10. 20		●	●	●
2006. 10. 24		●		

できるバットディテクター (BAT DETECTOR, MINI - 3, Ultra Sound Advice, U.K.) を使用した。また, 捕獲して種を判別するために霞網を使用した (環境省:5-155 号, 神奈川県:211 号による許可)。

2003 年 10 月 17 日, ため池の水面すれすれを飛び回るコウモリに, バットディテクターを向けたところ 50kHz 前後の周波数で「プツプツ・・・」と聞こえた。その後, 2005 年 6 月 17 日に霞網による捕獲調査を試み, 同じ音を発して水面を飛ぶ 1 頭のコウモリを捕獲したところ, モモジロコウモリの雌の成獣であった。下腹部の膨れた状態から妊娠中と推測された。捕獲は 1 個体のみであったが, 同じような声の聞こえ方と周波数帯, 常に水面を飛翔していたコウモリは, すべてモモジロコウモリと判断した。

モモジロコウモリは, 日が暮れ辺りが暗くなると飛来し, このため池を餌場として利用し, 冬季を除いて毎回観察された (表 1)。6 月, 7 月の観察では 15 頭前後が確認できたが, 10 月, 11 月では 3～5 頭前後のみとなり, 季節による個体数の差がみられた。

また, アブラコウモリ類が発する 45kHz 前後の周波数で「チュチュチュ・・・」と鳴くコウモリも確認した。家屋性のアブラコウモリか森林性のモリアブラコウモリ *Pipistrellus endoi* のどちらかと思われるが, 民家に近いことと, モリアブラコウモリは極めて稀な種であることから (阿部ほか, 2005), ここではアブラコウモリと推定した。このコウモリは春から秋の活動期に, 1～3 個体程度がほぼ毎回確認された (表 1)。

2003 年 10 月 17 日と 2006 年 10 月 20 日には, 105kHz 前後で「ピポポ・・・」と聞こえる音を発するコウモリを確認した (表 1)。このような高い周波数と聞こえ方をする種は, この地域では他に分布がないため (コウモリの会, 2006), コキクガシラコウモリに間違いないものと思われる。2006 年 10 月 20 日には少なくとも 2 頭が確認された。

この 3 種は, このため池において採餌空間を違えており, モモジロコウモリは水面を飛び回り, ため池を隅々まで利用していたが, アブラコウモリと推定されるコウモリは, ため池の上 10m 付近を飛び回り, ときおり 3m 付近に下りてくることもあった。コキクガシラコ

ウモリは, ため池にせり出す桟橋の下付近の水面を狭い範囲で旋回しながら採餌していた。このような 3 種の採餌上の棲み分けが観察された。

まとめ

神奈川県内において, これまで知られていたモモジロコウモリの生息地は, 山北町の酒匂川から玄倉川流域にかけて (山口ほか,

2002) と箱根町の芦ノ湖周辺 (石原, 1997) であった。今回確認した小田原市のため池は, これらの地域とともに県内における貴重な生息地である。また, 採餌場としてコウモリ類が通年利用しているため, ため池が今後も長く維持されていくことが望まれる。

捕獲したモモジロコウモリの雌は妊娠していたことが推測され, 本種は産まれた翌年の初夏から出産できることから (阿部ほか, 2005), 周辺で繁殖しているものと思われる。また, 冬眠直前である晩秋の 11 月 3 日と冬眠が開ける頃の 3 月 21 日に確認されたことから, この周辺に冬眠する洞穴があるものと思われる。筆者らは, これまでこの近くの荻窪用水の隧道や暗渠などを調べ, コキクガシラコウモリとユビナガコウモリの昼間の休息場を確認しているが (山口・志村, 2004; 山口・山口, 2005), モモジロコウモリは確認していない。このため, 今後, さらに周辺を調べて, 冬眠場所と出産哺育コロニーを確認する必要があるだろう。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類改訂版. 206pp. 東海大学出版会, 神奈川.
- 石原龍雄, 1997. コウモリ. 箱根・丹沢陸水研究会, 箱根・丹沢フィールドノート, pp.92-93. 箱根・丹沢陸水研究会, 松田町.
- 環境省, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—1 哺乳類. 177pp. (財) 自然環境研究センター, 東京.
- コウモリの会編, 2006. コウモリ識別ハンドブック. 68pp. 文一総合出版, 東京.
- 山口尚子・山口喜盛, 2005. 神奈川県西部におけるコキクガシラコウモリの分布状況. 神奈川自然誌資料, (26): 45-48.
- 山口喜盛・志村尚子, 2004. 小田原市の旧烏帽子岩隧道で見つかったコキクガシラコウモリとユビナガコウモリ. 神奈川自然誌資料, (25): 5-6.
- 山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子, 2002. 丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況. 神奈川自然誌資料, (23): 19-24.

(山口 (喜): 丹沢湖ビジターセンター,
山口 (尚): 丹沢野生動物研究会)